

令和7年度

昼間小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、様々な活動を通して、児童の思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業の実践
- ②児童が、自らの目標をもち、主体的に学びに向かう学習習慣の確立

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

中間期と年度末に担任が取り組み状況について報告し、学力向上検討委員会において検討し、見直しを図る。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習課題に対しやり遂げようとする意欲は高く、基礎基本の学習に取り組んでいる。 ●漢字の書きや言葉の意味、使い方の理解など、基礎基本の定着が十分でない。	・自分の学習到達度に応じた課題に積極的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	・プリント学習や1人1台端末を使ったドリル学習等を充実させ、反復練習に取り組ませる。	学習到達度に応じた課題に取り組むことができるよう、端末ドリルの活用や小テストを実施する際は、教師が取組状況について確認し、フィードバックを行う。また、学習の復習だけでなく予習を取り入れ、見通しをもたせることで、より確かな知識・技能の習得を図る。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えやその理由を発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる児童が多い。 ●文章や図といった複数の情報を読み取る力が十分でない。 ●目的や意図に応じ、自分の考えを伝えたり他者と話し合ったりすることが苦手な児童が多い。	・情報を正しく読み取り、それをもとに自分の考えを適切な言語活動により伝えることができる。	・思考ツールを活用して情報を整理し、ペア学習やグループ学習等、他者と協働的に学ぶ場面を取り入れ、情報活用能力を高める。 ・視点を与えてから、文章を読んだり書いたりする活動や、目的を明確にして伝え合う機会を設定する。	生活や学習の中で、条件や目的に合わせて考えを伝え合う機会を増やす。学年の実態に応じ、思考ツールを用いて情報を整理したり、情報の相互関係を説明したりする活動を取り入れ、正しく情報を読み取る力へつなげる。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、宿題等、設定された課題には、進んで取り組み、やり遂げることができる。 ●自分の学習の実態に応じた課題を設定し、計画立てて学びを進めていく力が十分でない。	・自分の学習の状況をしっかりと振り返ることができる。 ・目標に応じた方法や内容を選択し、学習を進めることができる。	・視点を提示して、児童が自身の学習状況を振り返る機会を設定する。 ・児童自らが進んで取り組むことができるよう、課題の提示の仕方を工夫する。 ・「計画」「練習」「分析」「振り返り」等、学年の実態に応じた自主学習の取り組み方を提示し、学びを進められるようにする。	振り返りの視点を教師が明確に示し、様々な学習活動で振り返りを充実させる。児童の興味・関心に応じた内容を共有したり、課題設定の方法を工夫したりするなどし、児童が自分に合った学習に取り組むことができるようにする。		